

「商店街NEXTチャレンジャー育成事業（2期生）」

【第4回研究会】

日時：令和元年9月30日（月）18:00～20:00

会場：福岡商工会議所ビル2階 第2研修室

《参加者》34名

■商店街関係者（10名）

■商店街での出店を考えており商店街の活性化に興味がある方（1名）

■商店街の活性化に興味がある方（13名）

■メンター（1期生）6名

吉川 和毅（川端中央商店街振興組合）、渡邊 輝彦（大橋商店連合会）、
谷口 真、呉 基弘、矢野 裕樹、秦 誠二郎

■コーディネーター等》

木藤 亮太（(株)ホーホウ 代表取締役）、松木 治子（(株)ホーホウ）

杉本 宏幸（福岡大学商学部 教授）、飛田 努（福岡大学商学部 准教授）

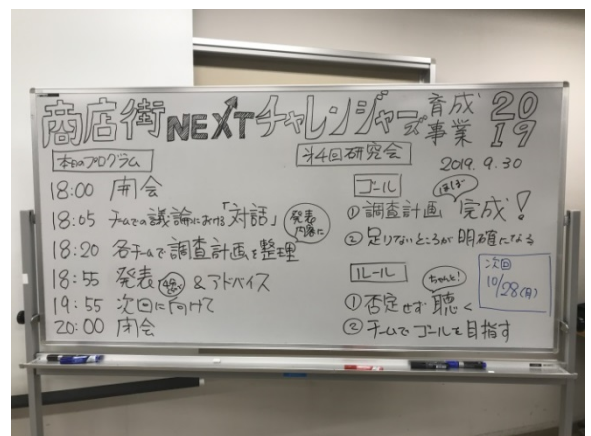
1.開会

木藤さん：先日、油津商店街に行く機会があり、研究会に参加されている方数名も一緒に行ったため、感想を聞いてみたいと思う。

（感想）

- ・商店街を歩いている人は少なかったが、人通りや、見た目だけが全てではないと感じた。
- ・商店街の中でつながりが生まれ、商店街にいる人が商店街を変えていこうとしている気持ちが伝わってきた。
- ・商店街が「再生」されたという感じではなく、新しい商店街の形のひとつなのだと感じた。
- ・新しい施設や空間に人が集まることで、人と人のつながりが生まれ、新しいチャレンジが生まれ、それをみんなで応援しようという空気感があった。
- ・商店街の中の保育園や店舗がお洒落な造りで、ひとつひとつ増えていくことで、にぎわいも増していくと感じた。

木藤さん：今後も油津商店街に行く機会はあるため、みなさんにも声をかけたいと思っている。
行ってみたい方は是非一緒に行ければと思っている。



2.対話について

木藤さん：今日の研究会までに、各チームで個別に集まり、議論や調査をしてもらっているが、チームで議論することの難しさを感じる場面もあるのではないかと思います。
チームで話し合うこと、対話することについて、今村部長から話をしてもらおう。

●今村部長

・前回の研究会から、チームでどこを調査するかなどの「話し合う」ということを始めた。

・チーム分けは事務局で行っており、年齢や性別、商店街の人もいれば、そうでない人も、色んな方がチームに混ざっている。

・色んな人が混ざっているということは、違う考えを持った人がチームに必ずいるということである。

・物事を話し合っていて決めていく中で、意見が合わない人が一緒にいるチームにいてもあれば、自分が言いたいことが言いづらいなど、いろんな場面が考えられる。

・対話について少し考えてもらうために簡単な自己紹介ゲームをしたい。

(ルール)

・チーム内で2人組でお互いに1分間で自己紹介をする。

・言うてはいけないことが3つある。

・1つ目は、出身地や住んでいる場所の話。

・2つ目は、どんな仕事をしているかなどの仕事の話。

・3つ目は、どんな組織やグループに属しているのかなど話。

(自己紹介終了後)

・相手から聞いた自己紹介について、同じチームの人に30秒で紹介してほしい。

(チーム内で紹介後)

・自己紹介をする中で、住んでいる場所や、肩書き、仕事の話をしてはいけないことが、辛かったという人もいると思う。

・肩書きを使わないで自己紹介をするということは、素の自分をだすということである。

・参加者のみなさんは、いろんな立場の方がおり、背負っている組織や、背負っているものも異なるが、この研究会では、背負っている立場を捨てて、個人として自分の思っている本音をお互いに言い合える関係になってほしい。

・相手から聞いた1分間の自己紹介を他の人に30秒で話すということが難しかったという人もいると思うが、これは、自己紹介をした側にも責任がある。

・1分間の自己紹介のうち、相手の人は30秒も覚えていないということは、一生懸命に話をしても、そのうち大半は相手に伝わっていないということである。



- ・相手は聞いているようで、実は聞いてもらえていなかったということである。
- ・それを分からずに、話す側はどんどん話を続け、結果的に聞いてもらえていない情報を喋っていたことになる。
- ・これは対話にとって非常に重要な要素であり、「自分の話を聞いてもらえているかどうか、確認しながら話をする」ということが対話のポイントである。
- ・話す時に相手が聞いてくれているかどうか、相手が聞きたくなるような言葉かどうか、このようなことも考えながら話をする事大切である。
- ・お互いの知っていることを活かし、違う視点を混ぜることで、何か新しいアイデアや発想が生まれないかという思いで、このようなチーム構成にしている。
- ・商店街に関わっていてよく知っているとか、関わっていないから何も知らない、立場や年齢など関係なく、対話を通じてお互いに思っていることを話せる、他人が思っていることを聞き合える、そのような関係性をつくってほしい。

3.調査計画の整理

木藤さん：前回の研究会から今日までの間に、個別にチームで集まり話をしたり、実際に商店街に行ったチームもあるため、それを踏まえて今後の調査計画や、現在の進捗状況などを発表してほしい。

発表に向けて各チームで内容を整理してほしい。



4.発表

「こねくと」

- ・高宮商店街を調査することになっている。
- ・高宮商店街が点在型の商店街であり、商店街としての存在感が薄いという課題がある。
- ・「点在型の商店街のあるべき方向性」をテーマに考えている。
- ・お店の方がどういった経緯で商店街の組織に入っているのかなどのインタビューを考えている。
- ・同じ点在型の大橋の商店街や、老司商店街などを調査し、比較することも考えている。



●木藤さん

- ・私がチームの集まりに参加した時には、人に視点を当てる話や、通り型ではない商店街だからこそできるコミュニティの形成の話、通り型でなくてもできるようなことがあるのではないかとといった話もあった。
- ・チームの集まりに参加できていない方にも、意見や情報を共有しながら、今後、具体的な方向性の議論をしてほしい。

●杉本先生

- ・高宮商店街を内部から見ている方の意見と、外部から見た方の意見のギャップや、同じ意見であるといった話は重要なポイントであると思う。
- ・高宮商店街を商店街の方が見ると、いつもの風景であっても、外からみた人は驚きや、発見があることもある。
- ・視察をしてみて分かったこと、特に外部から見て分かったこと、気づいたことについては、グループで対話してほしい。
- ・きれいにまとめる必要はなく、対話の中で上手くいっていないことや、グループ内での意見や、まとまらなかった意見などを発表してもらった方が、この研究会としては意味があり、もっと、困っていることを言ってもらって構わない。



「N7」

- ・西新商店街を視察した。
- ・周辺には、学校、幼稚園、大学、マンションがあり、地域の方の利用が多いと感じた。
- ・サザエさん商店街通りとして5つの商店街が連携し、ホークスに関連したコンテンツもある。
- ・盛り上がっている印象があり、その原因も調べてみようと思ったが、完璧な感じでもあった。
- ・唐人町商店街は、西新駅から1駅しか変わらず、周りには学校や住宅地もあり、ドームにも近いが、西新とは違う印象があり、比較しようと考えている。



●今村部長

- ・唐人町と西新の違いを比較調査する中で見えてくるものがたくさんあると思う。
- ・アーケードの有無や、立地場所、お店の状況という事実の違いは、すぐに見つかると思う。
- ・その違いが、どういう結果をもたらしているのかという仮説をたて、それが本当かどうか検証していくことにつながれば良いと思う。
- ・検証の過程では、他の商店街も比較対象に加えることで、仮説が証明できる可能性もあると思う。



●飛田先生

- ・唐人町商店街には昔ながらのお店が残っていることが、西新にとっては、メリットに見えているかもしれない。
- ・今ないものを「ない」とみるのか、今はないけど、「未来にはあり得るもの」として見るのかという視点も必要。
- ・目の前にあるものばかりを見るのではなく、その周りにも含めて、「見えていないものを見えるようにする」ということができるとより良いと思う。

●木藤さん

- ・実際に西新で商売をされている方の意見を聞いてみたい。

(意見)

- ・商店街が中心にあるという認識ではなく、個店がしっかりとお客さんへサービスを提供しているから売れていると感じており、商店街がどうかという話よりも、個店としてどうかという感覚が強い。

●木藤さん

- ・商店街という組織や組合があり、商店街という空間は魅力的であるが、実際にそこで商売をされている方全員が商店街に対しての気持ちが同じかと言えば、違う方もいるのは事実であり、もっと、掘り下げると見えてくるものがあると思う。

「タウンバリューアップーズ」

- ・ 創業に視点を置いてみた。
- ・ 銀天町商店街はマルキョウやソフトバンクの創業の地でもあり，創業という視点で掘り下げて調査できないかと考えている。
- ・ 建物や土地の権利などの課題もあるが，創業のルーツがあることや，空き店舗があるため，どうすれば創業しやすいまち，創業しやすい立地になるのかを考えてみたい。
- ・ 店舗が並ぶアーケードのある商店街であり，時間帯で歩行者専用にもなっており，商店街という空間を使えるのではないかと感じている。



●杉本先生

- ・ 銀天町商店街で創業する意味について，掘り下げる必要があると思う。
- ・ 商店街にどんな変化が必要で，何があれば良いのかを探ることで，どんなタイプの創業が必要なのかということが見えてくるのではないかと。



●飛田先生

- ・ 銀天町商店街で創業する人がどんな人かということが，まだ見えていない。
- ・ そこを見つけるために，インタビューやいろんな話を聞いて，比較しながらその姿を明らかにすることが必要と思う。
- ・ 新しいビジネスプランを考えることはよいことであるが，自分が困っていることが，他の人も困っているかどうかを考える必要がある。



「つこーてよかじえ」

- ・商店街の場所や、サービスをシェアリングという視点で何かできないかという話をしている。
- ・「商店街」という言葉や、誰の目線からみた課題なのか、チームのメンバーそれぞれの認識が一致していないこともあり、仮説の設定も難しい。
- ・商店街の課題として、変化に乏しいと感じている。
- ・変化をさせるために組織の問題もあるが、店主が変化に対応できないまま、買いたいものがなくなっている商店街になりつつあるのではないかと思う。
- ・シェアリングとして場所を提供することで、にぎわいを創ることができないかと考えている。
- ・これまでの商店街の概念から少しずつ変化が必要なのではないかと思う。



●飛田先生

- ・止まっているものをどう動かしていくかということが視点になっていると思う。
- ・シェアリングという話では、何をどう動かせば、何がどう動くのか、というシミュレーションや、変化に対応している商店街の事例を調べても良いと思う。
- ・様々なシェアリングサービスについて、どうやって成り立っているのか、それぞれの共通する点を調査し、商店街では何ができるかを考えてみることもできる。

●木藤さん

- ・シェアリングサービスはツールであって、その前提として、何のために、何を解決するためのサービスなのかということがある。
- ・シェアリングすることで解決するということから考えるのではなく、前提の課題や問題点をしっかりと設定して、それを解決するための手段としてシェアリングと結びつけることが必要。
- ・もともと商店街の中にシェアリングという概念はあったのではないかと思う。
- ・昔あったシェアリングを現代版にアレンジして復活させるということもできるのかもしれない。



「EX-P」

- ・美野島商店街，吉塚商店街，新天町商店街を視察。
- ・吉塚商店街は昔ながらの商店街であり，美野島商店街は外部と連携したイベントなどをしており，新天町は知名度もあって通行量も多い。
- ・現地を視察した後，それぞれどう感じたのか等を整理し，今後，調査計画を詰めていきたい。



●今村部長

- ・3つの商店街を選んだ過程で，みなさんの中に，それぞれボンヤリと感じている課題が潜んでいるのではないかと思うため，それを対話の中で言葉にして明らかにすることが必要である。
- ・課題意識がない中で，なんとなく商店街を見に行くのではなく，何をベースに見るのかを決めてから見に行くことも必要である。
- ・何をみに行くのか，なぜその商店街なのか，なぜその商店街が気になったのか，みんなで掘り下げていく作業が必要と思う。

●木藤さん

- ・商店街を選ぶときに，チームの中にいる人の商店街を選んでいるチームが多い。
- ・関係者の人がチームにいることで，調査がしやすいということはもちろんあるが，現状を把握しながら，なぜその商店街を選んだのかという整理もしてほしい。



- ・それを対話の中で見つけ出した上で，最終的に何か提案できるようなことを目標に考えてほしい。

●杉本先生

- ・自分が聞きたいことだけを聞くのではなく，他の人が聞いていることにも関心を持つことで，発見できることもある。

●飛田先生

- ・「なんとなくこんな感じ」という感想は避けて，「なぜそう感じるのか」を対話してほしい。
- ・同じ言葉でも，人によってニュアンスが異なることもあり，その違いを対話の中で確認することで，新しい発見もあると思う。
- ・言葉の定義をチームの中できちんと共有することをしてほしい。

「勢 ～IKIOI～」

- ・テーマを「儲かる商店街」として考えている。
- ・商店街を外から見ている方から「繁盛しているように見えないお店でも、お店が成り立っているのはなぜか」という素朴な意見があった。
- ・実際に、商店街の中にそのようなお店もあると思う。
- ・商売をやる以上、商売が盛り上がらないと楽しくないと思う。
- ・今後、必要とされる商店街は、「儲かる商店街」ではないかと話している。
- ・個店が儲かること、商店街組織が儲かることという2つの面から考えていきたい。
- ・商店街というものが必要なのか、個店が魅力的であれば、商店街は必要ないのかといった所まで掘り下げて考えていければと思う。
- ・商店街組織として広告料の収入がある新天町商店街や川端通商店街、御供所饅頭を作り販売収益がある御供所名店会などの事例があるが、これ以外の事例も調査してみたいと考えている。



●今村部長

- ・商店街のことを考える中で、商売のことを考えなければ、商店街の本来のありかた、何を指すべきなのかということは、見えてこないと思う。
- ・商店街の中にあるお店でも、商店街の中にあるから儲かっているわけではないと考えている人もいる。
- ・「儲かるということ」と「商店街という場所」の関係性を考えることも今後のポイントになると思う。
- ・「儲かる」ということの定義についても、チームで対話してほしい。

●飛田先生

- ・インタビューする時に、初めから自分が聞きたいことばかりを聞くと、相手も警戒してしまう。
- ・相手が喋りやすいことから始め、相手に気持ちよく喋ってもらう状況を作ることが重要。

5.次回に向けて

●木藤さん

- ・今日は4回目の研究会で、全体で9回を予定している。
- ・次回以降も、今日のような対話をしながら内容を深めていく時間にしたい。
- ・今日の対話でのアドバイスや視点を活かして、今後内容を深めてほしい。
- ・チーム内で欠席の人とも情報共有をしてほしい。
- ・今日は、福岡市の商店街支援施策の審査委員をされている先生方が見学に来ているので、感想を聞いてみたい。

●久留先生

- ・商店街の方だけでなく、いろいろな方が参加されていることで、様々な意見が出ていることは非常に良い。
- ・多様な意見を聞いて考えることは、今後、商店街のことだけに限らず、様々な場面で活かせることになる。

●須川先生

- ・議論する中で、いろんな意見があって当然であり、どこも同じような商店街になってしまうと面白くない。
- ・若い人が多く、活発な議論がなされているため、今後もぜひ続けてほしい。

●木藤さん

- ・委員の先生方には、2月に各チームの発表を聞いてもらうように考えている。
- ・各チームの集まりやフィールドワークの日程については、市に連絡してほしい。
- ・私も日程が合えば参加したいと思っている。
- ・次回の第5回研究会は10月28日(月)18時から、この会場で開催する。

